

人間とは何かを知るための本

経済学部分館運営委員会
運営委員
清水 純

私たち人間はなぜ毎日毎日とりとめのないおしゃべりを繰り返しているのでしょうか？また、人間の社会ではなぜもめごとや争い・戦争が絶えないのでしょうか？人はどうして何百万・何千万人も集まって大規模な社会を作ろうとするのでしょうか？

最近の人類学の研究成果は、ヒトとヒトの作る社会の謎に関するこうした疑問への答えを示してくれるようになりました。以下に挙げた本は、人類学の最新の研究成果について教えてくれます。そして、私たちヒトがもっている独特のくせや性質の意味を解き明かしてくれます。一見意味のない仲間とおしゃべりに時間を費やす日々がある一方で、ヒトの社会に争い事や戦いがなくならない日はない、そんな現在のヒトの在り方を生み出したのは人類進化の必然でもありました。

グローバル化した現代に、人類がどうすれば平和的に繁栄し、共存していけるのかを考えるために、学生 みなさんにぜひ手にとって読んでほしい本です。

(1) 『人類進化の謎を解き明かす』

ロビン・ダンバー 著 鍛原多恵子訳 (インターシフト出版 2016)

469.211D97 5F

(2) 『人類史のなかの定住革命』 西田正規著 (講談社学術文庫 2007)

38911N81 5F 文庫新書コーナー

(3) 『友達の数は何人?—ダンバー数とつながりの進化心理学』

ロビン・ダンバー著 藤井 留美訳 (インターシフト出版 2011)

140.411D97 5F

(4) 『ことばの起源—猿の毛づくろい、人のゴシップ』

ロビン・ダンバー著 松浦俊輔, 服部清美訳 (青土社 2016)

80211D97 5F